令和７年度　学校評価結果（北海道紋別養護学校ひまわり学園分校）

１　教職員評価

(1) 実施日

令和７年 11 月４日～令和７年 11 月 14 日

(2) 対象者

教職員　36 名（教員 33 名、行政３名）

(3) 結果

ア　教職員（回収率　100%　　平均評価点　　3.12　　）

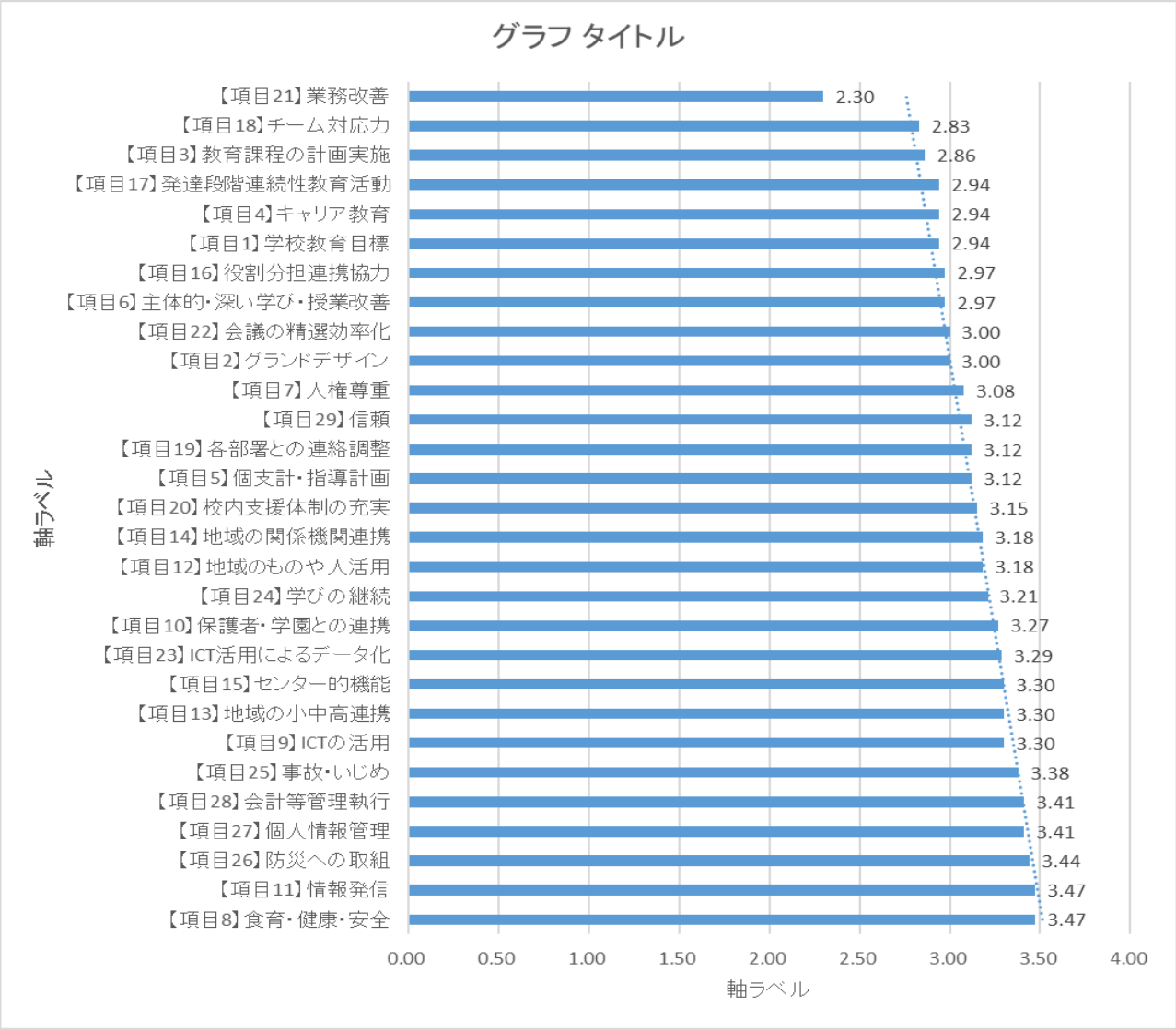
(ｱ) 評価点は次のとおりとした。

・評価４（よくできた）～４点　　・評価３（できた）～３点

・評価２（あまりできていない）～２点　　・評価１（できていない）～１点

(ｲ) 図１は 29 の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図１　平均評価点（教職員）】



イ

評価項目	平均評価点
学校経営	2.97
社会とのつながり	3.09
保護者・地域とのつながり	3.28
組織間のつながり	2.92
安心・安全な学校	3.33

ウ　学校経営【平均評価点：2.97】

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.12 位以下	推進担当
【項目 1】学校教育目標の具現化 【項目 2】グランドデザイン	【学校教育目標の具現化】 ・学校教育目標の具現化、育てたい資質・能力を育むためには、どのような指導が適切なのかを各学部・分掌等で検討し、次年度の運営計画に記載し反映を継続する。 ・運営計画の具現化について、PDCA サイクルして評価・改善していく過程を重点に置く。 ・具現化した内容が、年間指導計画や単元設定にどのように反映されているのかを検証していく必要がある。 ・学校教育目標と教科別の指導、各教科等を合わせた指導、領域別の指導における年間指導計画、単元計画、題材計画の整理が必要 ・学びの連続性を意識した学習内容の整理と単元・題材の意味付け・価値付け ・児童生徒の学習効果を高めるための教科横断的な指導の充実	・管理職 ・全教職員 ・各学部

エ　社会とのつながり【平均評価点：3.09】

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.12 位以下	推進担当
【項目 3】教育課程の計画実施 【項目 4】キャリア教育 【項目 5】個支計・指導計画	【教育課程の計画・実施】 ・個別の指導計画の様式の変更や内容の検討。 ・各学部のつながりを意識した教育課程の見直し	・管理職 ・全教職員

【項目 6】主体的・深い学び・授業改善 【項目 7】人権尊重 【項目 8】食育・健康・安全 【項目 9】ICT の活用	を図る。 ・教科横断的な指導における資質・能力(言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力)を通して、児童生徒の生活及び将来に関連付けた教育課程について、教育課程の整理及び各学部のつながりを意識した学習内容の整理と単元・題材の意味付けへの取組を徹底する。 ・教科部会への取組を充実させ(日常生活の指導や自立活動の部会設定)、小・中・高のつながりのある生活に即した学習活動を展開する。 【キャリア教育】 ・「北海道紋別養護学校ひまわり学園分校キャリア教育全体計画」の整理及び活用 ・将来の生活にかかわる研修の充実（各場面から求められる必要な力についての再確認） ・児童生徒の希望や適性に応じた自立と社会参加に向けた早期からの進路指導の充実 ・教科部会を活用した、小・中・高のつながりや連続性のある指導を意識したキャリア教育の再認識が必要。 【主体的・深い学び・授業改善】 ・授業について話し合う時間を確保する。 ・研究テーマとの関連を図ることや各学部等・縦割りグループ等のチームとして「主体的・対話的・深い学び」を通した授業改善への取り組みを実施する。外部講師による研修会の実施、定期的な校内研修（教育課程や ICT 活用)、特セン研修支援、授業を協議する場（校内研究、初任者授業研）の設定等をとおして、教職員の専門性向上への取組を継続する。また、教職員一人一人のキャリアに応じた積極的な研修参加や、学校課題や教職員のニーズに合わせた研修の設定が必要である。 【人権尊重】 ・呼名「～ちゃん」から「～さん」への徹底や言語環境の整備、重点教育目標「主体的・協働的な教育活動の推進」の継続。人権基盤を意識した教育の推進に向けて、児童生徒理解（発達段階や生活年齢）に基づく学習内容、児童生徒一人一人が尊重される学習環境や教師の関わりとなっているかを考えることが必要である。 ・児童生徒の発達の過程をどのように支えるかという視点の重視（「させる」から「支える」へ） ・人権意識を基盤とした、児童生徒一人一人が安心できる学級、学年づくり（研修の充実） ・研修会の実施し、事例検討会等で考えを深めた	

	りできる機会を確保する。 【ＩＣＴ活用】 ・授業で児童生徒が端末機器を活用できる研修の実施。	

オ　保護者・地域とのつながり【平均評価点：3.28】

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.12 位以下	推進担当
【項目 10】保護者・学園との連携 【項目 11】情報発信 【項目 12】地域のものや人活用 【項目 13】地域の小中高連携 【項目 14】地域の関係機関連携 【項目 15】センター的機能	平均下位及び平均値はなかったが、今後に向けて、地域のものや人の活用や情報発信等に取り組んでいく必要がある。具体的には、学校運営協議会（コミュニティスクール）の教育活動への反映 ・学校運営協議会に関わる校内検討組織の充実（次年度各分掌部長の参加の反映） ・学校運営協議会の協議内容を取り入れる教育活動地域の物的資源・人的資源の開拓及び積極的な活用 ・学校運営協議会の情報による地域の物的資源・人的資源の開拓及び活用 ・地域貢献する学習のさらなる検討（町内清掃活動など） ・児童生徒の経験を高める活動の推進（校外学習、職場体験、公共施設の利用　など） ・地域の人材（外部講師）の積極的な導入（遠軽町教育委員会との連携）	・管理職 ・総務部 ・全教職員

カ　組織間のつながり【平均評価点：2.92】

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.12 位以下	推進担当
【項目 16】役割分担連携協力 【項目 17】発達段階連続性教育活動 【項目 18】チーム対応力 【項目 19】各部署との連絡調整 【項目 20】校内支援体制の充実 【項目 21】業務改善 【項目 22】会議の精選効率化 【項目 23】ICT 活用によるデータ化	【役割分担連携協力】 各学部や各分掌間の情報共有し、役割分担や連携・協力体制を充実させていく。学部連絡会の機能の充実や運営委員会の機能拡充等の検討をさらに行い連携協力を図っていく。 各部署の役割分担を明確にした連携・協力体制の充実 ・チャットに頼りすぎで説明・相談不足にならないよう話し合いや口頭説明機会の充実。 ・教務、行政、ひまわり学園の役割や勤務体制を認識し、お互いの立場を尊重	・全教職員 ・各分掌 ・管理職 ・運営委員会 ・管理職 ・全教職員 ・各分掌 ・全教職員 ・管理職 ・各学部 ・各分掌

	・学校、ひまわり学園の日常的な連携（連絡ノート等）及び対話に基づく指導の共有 ・職員同士の日常的な対話の重視と前向きかつ建設的な打ち合わせ 【発達段階連続性教育活動】 各学部の発達段階を考慮した、連続性のある教育活動に関わる連携 ・教科部会、形態別部会を通じた各学部の取り組み内容の把握と連続性に関する検討 【チーム対応力】 ・１０分間ミーティングの設定 ・５分間相談タイムの設定 ・チーム(各学部・各分掌)として「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図る。 ・初任段階研修等における、ミドルリーダーへの分担や効果的な研修の在り方を検討し、初任段階層及びミドルリーダーの資質・向上を図っていく。 【業務改善】 ・コアチームの運用や業務改善アンケート等の取組を基本とし、業務の精選、業務の平準化、適切な分担、初任者と経験者がともに学び合えるメンター研修、定時退勤の徹底。 ・業務改善アンケート等をもとに、業務の精選、業務の平準化、適切な分担、休憩時間の意識化、初任者と経験者がともに学び合える研修、定時退勤の徹底の実施。 ・児童生徒と向き合う時間を確保するための業務改善の継続 ・業務の明確化、適正化、効率化（各学部、行政、分掌業務の明確化、効率化に向けた取組） ・適材適所を前提とした業務の平準化（担任等と主事、主任、部長等の業務の平準化） ・勤務時間、休憩時間の意識化とメリハリのある時間の活用（タイムマネジメント） ・便利なようでべんりでないデジタル化を必要な改善なのか検討が必要。 ・データの蓄積。 ・本当にやらなくてもよい事務作業の洗い出し。 【具体的検討事項】 ・学年通信から学部通信へ	

	・連絡帳の簡素化 ・礼状の廃止 ・8:30 に玄関開錠 ・個別の指導計画の所見欄の見直し ・個別の指導計画の評価チェック方法の検討 ・給食刻み健康チェックの簡素化 ・給食メニュへの簡素化 【会議の精選効率化】 　会議等については、案件に合わせた会議終始時刻を設定する。（退勤時刻を過ぎて会議を行わない）職員会議では、協議が必要なものを協議事項、協議が必要のないものを連絡事項、その他書面確認のものを紙面報告事項とすることを校内周知し徹底していく。会議の精選及び内容の効率化の徹底 ・chat や Google　ＳＤを活用した会議の効率化 ・目的、内容、会議時間の明確化 ・職員会議及び職員朝会の効率的な開催 ・協議内容の事前配布の徹底 ・チャットだけでは不十分な内容もあり、説明が必要を行う。	

	【各部署との連絡調整】△平均点 ＊chat 連絡は、簡単で便利で「連絡」「報告」にはね向いているが、重要な「相談」「共通理解」には、弱点がある。今年は、chat に上がってから、「課題」が見つかり、関係担当部署に事前確認や相談がない状態でチャットにあがり、混乱するケースも散々した。 学部連絡会を軸として、各学部・分掌等の課題の集約や整理等及び検討を行い、方向性を提示し、校内の効果的な連絡調整の役割を果たす。 報告・連絡・相談・確認体制の徹底 ・一人一人の教職員の意識化の徹底（一人で抱えない、チームで対応、複数で確認） ・相談の仕方についての共通理解（「どうしたらよいか？」ではなく、「このようにしたい」といった原案提示） ・学部連絡会の機能の充実（教頭、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務部長） ・それぞれの部署での課題の整理と集約及び検討の徹底	学部連絡会 運営委員会

キ　安心・安全な学校【平均評価点：3.33】

評価項目	課題となる事項、改善点及び次年度に向けて 全体平均 3.12 位以下	推進担当
【項目 24】学びの継続 【項目 25】事故・いじめ 【項目 26】防災への取組 【項目 27】個人情報管理 【項目 28】会計等管理執行 【項目 29】信頼	【信頼】△平均値 ・教職員の規範意識やコンプライアンスへの取組について、教職員一人一人による率先垂範の姿勢の徹底（挨拶・服装・言葉遣い・整理整頓等・携帯電話の使用禁止）や法令及び服務規律の理解啓発及び実践の取組。及び不祥事防止に向けた取組を徹底することが必要。 ・教職員相互に「言動の確認」「法令及び服務規律の遵守の確認」を行う。 ・社会人としての身だしなみ、挨拶、礼儀、マナー、言葉遣いに日々取り組んでいく。 ・校内及び担当教室の整理整頓等を行い、定期的な確認を行い教室環境や環境衛生に努める。	・管理職 ・全教職員

２　保護者評価

(1) 実施日

令和７年 11 月４日～令和７年 11 月 14 日

(2) 対象者

24 名　（通学生保護者　15 名、　ひまわり学園職員９名）

(3) 結果

ア　回収（23 名）回収率　96%　　平均評価点　3.57

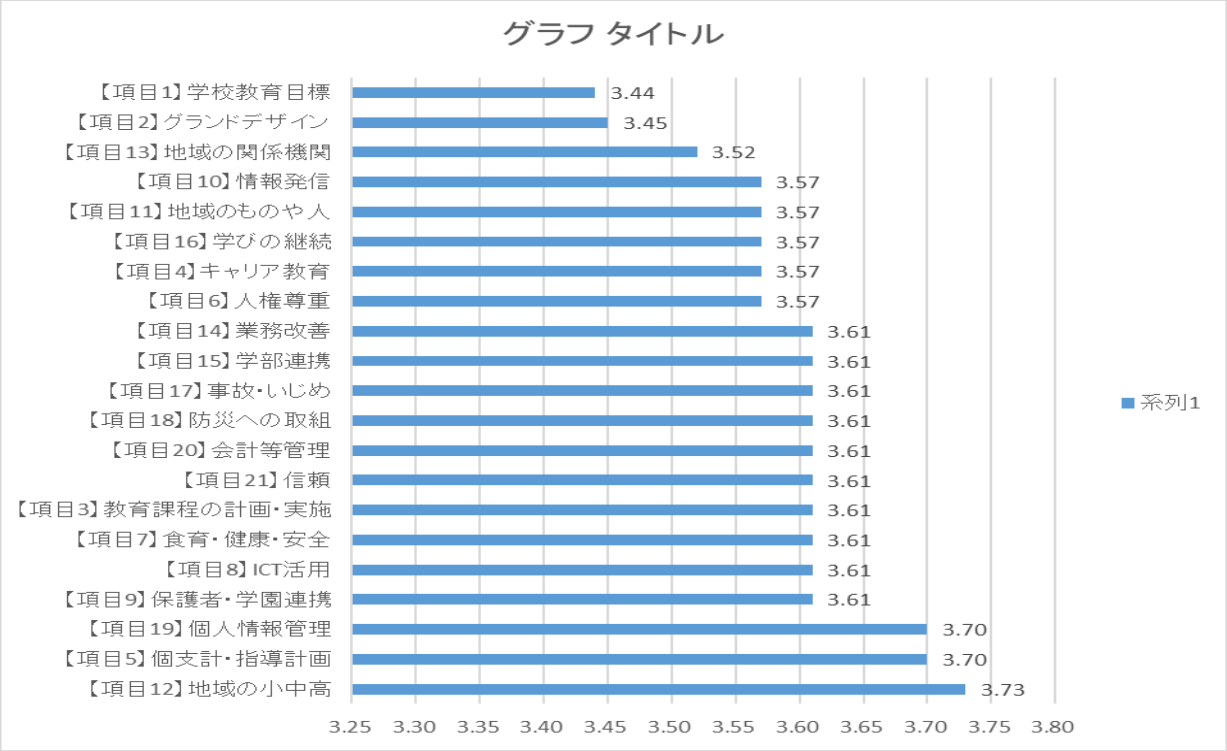
(ｱ) 評価点は次のとおりとした。

・評価４（よくできた）～４点　　・評価３（できた）～３点

・評価２（あまりできていない）～２点　　・評価１（できていない）～１点

(ｲ) 図２は 21 の評価項目を、評価点の平均値別に整理した図である。

【図２　学校評価（保護者・学園職員）】



イ　各項目の平均評価点、分析及び次年度に向けて

評価項目	平均評価点
学校経営	3.45
社会とのつながり	3.61
保護者・地域とのつながり	3.60
組織間のつながり	3.61
安心・安全な学校	3.62

【分析及び次年度に向けて】

・「よくできた」「できた」の割合が、全21項目全てにおいて97%以上と高い評価をいただいた。21項目中、13項目が平均評価点の3.57以上の評価をいただいた。「教育課程の評価・実施」、「個別の指導計画・個別の教育支援計画」、「食育・健康・安全」、「ＩＣＴ活用」、「保護者・学園との連携」、「地域小・中・高のつながり」、「業務改善等」、「小・中・高学部連携」、「事故・いじめ等」、「信頼」、「防災」、「個人情報管理」、「会計等管理への取り組み」について一定の評価をいただいた。

・今年度は、「個別の指導計画・個別の教育支援計画」が3.70、「地域の小・中・高とのつながり」が3.73、「個人情報の管理」が3.70と昨年度より高い評価をいただいた。今年度いただいた結果は、様々な教育活動について、理解や協力をいただきながら連携が図られてきたことによる評価ではないかと推測される。

・平均評価点以下の項目で、0.1以上低かったのは、21項目中２項目であった。学校経営の２項目（「学校教育目標の具現化」・「グランドデザイン」））。0.02とやや低かったのが1項目で、「地域の関係機関との連携」。平均点の項目は、５項目で、「地域への情報発信」・「地域の人的・物的資源の活用」「キャリア教育」・「人権尊重」「学びの継続性」となっている。

・「学校教育目標の具現化」・「グランドデザイン」

〇学校教育目標とつながりを意識した各部署の役割分担を明確にした連携・協力体制の充実

・教務、行政、ひまわり学園の役割やお互いの立場を尊重

・学校、ひまわり学園の日常的な連携及び対話に基づく指導の共有

・職員同士の日常的な対話の重視と前向きかつ建設的な打ち合わせ

〇学校教育目標を具現化に基づく各学部の発達段階を考慮した連続性のある教育活動に関わる連携

・教科部会、形態別部会を通じた各学部の取り組み内容の把握と連続性に関する検討

〇報告・連絡・相談・確認体制の徹底

・一人一人の教職員の意識化の徹底（一人で抱えない、チームで対応、複数で確認）

・相談の仕方についての共通理解（「どうしたらよいか？」ではなく、「このようにしたい」といった原案提示）

〇各部署間の連絡調整の充実

・学部連絡会の機能の充実（教頭、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務部長）

・それぞれの部署での課題の整理と集約及び検討の徹底

・「地域の関係機関との連携」

学校運営協議会の活用を図るとともに、地域との連携推進を図る校内体制の整備や生活文化体験活動、自然体験活動、社会体験活動の体験活動や現場実習等を実施していくための各教科等の特質に応じた教育課程の編成、さらに学校・家庭・地域が連携して情報提供を行い推進していく。

・「キャリア教育」

「北海道紋別養護学校ひまわり学園分校キャリア教育全体計画」の整理及び活用

将来の生活にかかわる研修の充実（各場面から求められる必要な力についての再確認）

児童生徒の希望や適性に応じた自立と社会参加に向けた早期からの進路指導の充実

・「人権尊重」

呼名「～さん」の各学部内の徹底や言語環境の整備、人権基盤を意識した教育の推進に向けて、児童生徒理解（発達段階や生活年齢）に基づく学習内容、児童生徒一人一人が尊重される学習環境や教師の関わりとなっているかを考えることが必要である。

教育公務員としての自覚と責任をもち、教職員の意識向上に向けた研修を継続し、服務規律の保持とともに一般的な接遇のマナーへの理解を深めていく。また、子ども一人一人の良さや可能性を理解し、教職員相互に情報を共有し校内体制を整える。

・「地域への情報発信」・「地域の人的・物的資源の活用」

安国地区にとどまらず遠軽を地域として考え教育活動を拡げ、地域資源を活用した学習の充実を図る。併せて、これらの学習活動の様子を保護者や関係機関、地域への発信を積極的に行う。

・「学びの連続性」

各学部の発達段階を考慮した連続性のある教育活動に関わる連携

教科部会、教科領域を合わせた指導(日常生活の指導・作業学習・遊びの指導・生活単元学習)、特別活動、道徳等の形態別部会を通じた各学部の取り組み内容の把握とつながりを意識した小・中・高の連携による学びの連続性に関する検討